



大村中学校通信 No30

学校教育目標 心豊かで、自主性に富み、創造的で、未来を切りひらく生徒の育成
校 訓 「 自主・創造・敬愛 」 R3. 2. 22発行 文責 校長 松崎大樹

チーム大中 思いを力に！

春の新たなスタートに向けての「0学期」 歩みを止めない「確かな学び」を作り上げるための、より良い習慣作りを！

生徒のみなさんへ

先週、学年最後の3学期期末テストも終了しました。そして、コロナ禍の中、様々な出来事があった令和2年度の学校生活も、残り1ヶ月あまりとなりました。本当に月日が経つのは早いものだと感じる今日この頃です。

さて、3年生のみなさんは、いよいよ公立高校後期学力検査・卒業・高校進学！と新しいステージへの旅立ちを覚悟する時を迎えています。また、1・2年生にとっては進級、そして自己の進路に対する意識の高まりを感じるこの時期に、「当たり前」のことを続ける大切さについて、改めて、しっかりと目を向けてほしいと思っています。「当たり前」のことを「続ける」ということは難しいことですが、「当たり前」のことを強い意志をもってやり続けると、それは「習慣」になります。そして、この良い「習慣」は人を確実に成長させ、高めてくれるのです。

また、学年末のテスト結果も徐々にそろそろ頃だとは思いますが、改めて、「テスト前の頑張りだけでは成績を上げるのは難しい・・・。」と感じている人も少なくはないでしょう。そして、また、テスト返却直後に抱いた「今回の反省を生かして、次のテストこそは頑張ろう！」という思いも、時間と共に徐々に薄れてしまい、次のテストがまたやってくるという経験をしたみなさんも多いのではないのでしょうか・・・しかし、この繰り返しでは、学力の向上は期待できません。

確かな学力を身に付けるためには、何よりも「授業を真剣に受けること」、そして「より良い学習習慣を身に付けること」という、この2つのことがとても大切です。

だからこそ、自分自身の学習に取り組む意欲や態度、家庭学習の習慣について、今一度、しっかりと考えてほしいと思っています。この「継続は力なり」という言葉がありますが、私はその継続を「習慣」にすることこそ最も大切なことであり、大きな力になると信じています。

そして、その「習慣」が、やがてその人の学力を着実に向上させていき、成功へ導いてくれるものと思います。

授業と家庭学習の両立は極めて重要です。「学校の授業→家庭学習を続ける→学習内容が分かる→学習や授業が楽しくなる→学習や授業への意欲が向上する→学力が伸びる」これがプラスのサイクルです。

3年生にとっても、1・2年生にとっても、今の時期は、春の新たなスタートに向けての大切な準備期間＝0学期です。だからこそ、この時期のより良い習慣の定着が、みなさんの一人一人の充実した日々の生活、そして、人生につながっていくのです。

春の新たなスタートに向けてのより良い習慣づくりを、しっかりと心がけていきましょう。 校長より

「継続は力なり」という言葉がありますが、その継続を「習慣」にすることこそ最も大切なことであり、大きな力になると信じています。春の新たなスタートに向けての「0学期」歩みを止めない「確かな学び」を続けよう！



チーム大中 思いを力に！ (2月第4週の言葉)

行事徹底
当り前のことを徹底して行うこと

より良い
習慣

人を成長させ
成功に導いてくれるのです！



令和3年度生徒会 スローガンが決定しました！！



川久保龍成生徒会長はじめとする第36代生徒会が令和3年度のスローガンを決定し、2月10日(水)の生徒集会で、全校生徒に放送によって発表しました。

このスローガン決定に際しては、まず生徒会長、副会長、書記で構成する生徒会三役で、「一人一人が考え、行動する学校へ」という願いを込めてスローガンの案作りに取り組みました。その後、生徒会三役に各専門委員会の委員長・副委員長を加えた運営委員会を何度も開催し、スローガン案をしっかりと検討・協議する中で、最終的に令和3年度のスローガンが決定したそうです。

校長としても、立派なスローガンが、生徒会主体で決定したことをとても嬉しく思っています。会員の生徒一人一人が、この生徒会スローガンの意味をしっかりと理解し、胸に刻む中で、日々の学校生活の中で行動として現してくれることを大いに期待しています。しっかりと頑張っていきましょう！

令和3年度生徒会スローガン

風凜華三

～重ねる努力 確かな力～

【スローガンに込められた思い】

一人一人が考え、行動する学校へ
風・・・ 伝統を受け継ぎ、さらにより良くする
凜・・・ 周りに流されず、「自分」を貫き通す
華・・・ 明るく元気な学校
三・・・ 3学年が1つにまとまれる

今後の学校行事について 2月

22日(月)～26日(金)
R3年度課外クラブ申込み(1・2年)
23日(火)天皇誕生日
24日(水)～25日(木)三年生集金
28日(日)
大村市青少年健全育成研究大会



3月

4日(木)課外クラブ育成会
8日(月)公立高校後期の受検指導
9日(火)～10日(水)
公立高校後期学力検査
※3年生給食なし
11日(木)全校集会(卒業生お別れ集会)
12日(金)学級・全校専門委員会
(1・2年のみ)
15日(月)3年生は4校時で下校
※3年生は給食なし
16日(火)第35回卒業式
※全学年給食なし
17日(水)公立高校合格発表
小学校卒業式
20日(土)春分の日
24日(水)修了式・離任式
※1・2年生給食なし
25日(木)令和3年度新入生物品販売





令和2年度の締めくくりに向けて さらに生徒一人一人が大切にされる優しい学校を作るために、 私たちが今、しっかり考えなければいけないこと…。



生徒のみなさんへ

人と人の出会いは一期一会、約一年前の新クラス発表で出会ったみなさん一人一人のクラスメイトも、まさにこの一期一会の出会いと言えるものでしょう。さて、生徒のみなさんは、この一年間という時間が経つ中で、その出会いを通して知り合ったクラスの仲間たちとの絆はどれだけ深まったのでしょうか…。

令和2年度も残り1ヶ月あまりとなりました。もう一度、自分自身の周りの仲間への関わり方について考えてみるにはとてもいい時期だと思います。なぜなら、今のクラスのメンバーと過ごすことは、長い一生の中でもこの残された1ヶ月しかないからです。

もし、周りのクラスメイトに優しく接することができていたならば、その優しさを続けられればいい…。

もし、周りのクラスメイトに優しく接することができていなかったら、明日からはしっかりと優しく接すればいい…。

もし、周りのクラスメイトに優しくすることに壁を感じているならば、次からは勇気を持って優しく接すればいい…。

そんな生徒が一人でも増えてくれれば、残り1ヶ月の中でも、さらに生徒一人一人が大切にされるクラスが出来上がり、そのことが令和2年度の締めくくりに向けて、さらに生徒一人一人が大切にされる優しい大村中学校を作ることにつながっていくと考えられます。

そこで、今回の学校だよりでは、優しい学校を作るために私達が今、しっかり考えなければいけないことについて、その方向性を示してくれる記事を改めて2本紹介させていただきます。

一本目は、副校長の江川健一先生が発行されている職員室だより「一燈照隅」～もっとカッコイイ大中学生になれる～から。

二本目は、今年の人権集会でみなさんが学んだ、コロナ禍の中、島根県松江市のある高校で起きた新型コロナウイルス感染症の大規模クラスターの事例からです。

この二つの記事を読んでもらい、さらに「生徒一人一人が大切にされる優しい大村中学校」が作られることを願っています。 校長より

その1 「一燈照隅」～もっとカッコイイ大中学生になれる～ 副校長 江川健一

私達の学校には、視力や聴力、歩行などに不安がある生徒、大きな音が苦手な生徒、密集が苦手な生徒等、様々な生徒が通っています。その生徒たちにとって、過ごしやすい学校になっているかどうか、インクルーシブの見地からも、慎重に確認する必要があると思います。施設面の整備はもちろん大切だと考えますが、そこを埋めるのは「ひと」の力だと思います。そんなことを考えていたとき、以前紹介していただいたある作文のことが頭に浮かびました。それは、内閣府が募った「心の輪を広げる体験作文」の入賞作で広島県の中学生の作文でした。

様々な立場の人の状況や気持ちに寄り添ったものの見方、考え方ができるようになると、もっとカッコイイ大中学生になれると思います。



私には障害がある。生まれつき骨の成長が極端に遅い骨幹端軟骨無形成症。(中略)通っている中学校には感謝している。先生方と全校生徒1200人が私を受け入れてくれた。トイレには手すり、公衆電話には踏み台、勉強机は小さいサイズにしてもらった。ただ一つ、不安なことがある。他の生徒が校舎内を走るからだ。ちょうど彼らの膝が私の頭に当たるので、何度か怖い思いをした。教室を出た途端、ぶつかった。私は突き飛ばされて頭を打った。大事に至らなかったが怖かった。先生も生徒も急ぐ場合もあるだろう。でも少しだけ周りを気にしてほしい。(後略)

3学期の始業式で、生徒指導の田中先生から次のような話がありました。

「密」…心の親しみ、つながりを強くするために

1 活気、すがすがしいあいさつ 2 思いやりのある集団(他者への言葉遣いや行動)

3 気配り、心配りができる集団(サイレントゾーンでの騒がない、奇声を発しない歩行マナー)

いくら施設設備を整えても、人の気持ちがついてこなければ、やはり安全安心な学校とは言えません。田中先生が話されたこの3点ができるようになることで、様々な立場の人の状況や気持ちに寄り添ったものの見方、考え方ができるようになると、もっとカッコイイ大中学生になれると思います。

(※インクルーシブ…あらゆる人々が孤立したり、排除されたりしないように社会の構成員として相互に協力・連携し、支え合う社会政策の理念)

その2 新型コロナウイルスのメガクラスターを乗り越えて

島根県 立正大学松南高等学校 北村直樹校長先生の手紙より

令和2年8月半ばに、島根県松江市にある立正大学松南高校で、寮生活を送る運動部員を中心に新型コロナウイルスに108人が感染するという大規模クラスターが発生しました。松南高校の先生方は、多くの関係機関と協力しながら生徒達の健康回復と市中への感染拡大防止を最重要課題として全力で取り組まれました。しかし、その間、学校や関係者に対して感染症に対する偏見・差別による誹謗中傷と攻撃がたくさんあり、多くの苦難と悩みを抱えながら、生徒達の人権を守るために力を注がれました。そんな状況下で、北村直樹校長先生から全校生徒へメッセージが送られました。ご一読ください。

立正大松南高校およびサッカー部のおみなさん、コロナ感染に関して謝罪する必要なんてないよ。対策しても感染する確率は0にはできませんから。それより熱とか体は大丈夫？今はしっかり食べて休んでな。治ったらまた夢に向かって頑張れ！心配してる人もたくさんいることを忘れんといて。



本田圭祐さん

世の中には、誰かを攻撃する人がいて、今度はその攻撃していた人を攻撃する人が出てくる。心ない言動は本当に悲しいことだと思います。本校の生徒のみなさんは、誰かを責め批判するよりも、支えてくれる家族や支援してくれる心ある人に感謝を深める人になってもらいたい。大切な日常を取り戻したら、これからどのように恩返しの人を送れるか、みんなと考えていきたい。「困っている人は助け、病を患っている人はいたわり、快復を祈る」という人として当たり前のことのできる人になってもらいたいと思います。多くの支援をしてくださった人たちに感謝をして、しっかり休養し再開に備えてください。誰も責めてはいけません。 校長 北村直樹

※ネット上の偏見や差別、誹謗中傷に対して、元日本サッカー代表の本田圭祐さんと青森山田高校のサッカー部を始め多くの応援メッセージが寄せられるなど、支援の輪が広がり、とても苦しいときに勇気づけられたそうです。